

仮面ライダージュー

第一話 「焼け！ ジュー！」

原作 みくの森章太郎
脚本 マキヤ

「仮面ライダージュー」 第1話」・登場人物表

牧之瀬 雄斗 (28)	記憶喪失の青年
美川 翔真 (24)	カフェのウェイター
白井 芽子 (22)	酪農アイドル
芋男爵 (?)	芋姿の怪人
ゲロモヤシ (?)	モヤシ姿の怪人
ボス (?)	ボス

「仮面ライダージュー」・慷慨・あらすじ

自分が何者かは思い出せず、街を彷徨っている牧之瀬雄斗。理由もわからず「怪人芋男爵」に襲われ、慌てて逃げるも追い詰められる。死を覚悟したその瞬間、体がピカッと光り怪人芋男爵を眩ませる。

逃げた先で落ち着いていると腰から煙。見てみるとアツアツに熱せられている「網ベルト」。その様子を見たカフェ店員、草薙翔真は雄斗にご飯をおごり、ミートウオッチを授ける。

またも怪人に見つかりやられそうになる。翔真の「困ったら腕時計のボタンを押せ」という翔真セリフを思い出し、腕時計を見ると「ミートオン…ミートオン…」と鳴っている。ボタンを押すと「少々お待ち下さい…」と機械音が鳴った後、ヴウン…とホログラムで焼き肉屋さんの注文タッチパネルが現れる。

わけもわからず適当に注文すると、カルビを持った翔真が転送されてくる。

「そいつをベルトのアミでしっかり焼くんだ！」

両面きっちり焼いた所で変身。牛の鳴き声が響き渡る。カルビームとライダーキックで芋男爵を退治。

この話は自分自身を探す物語。なぜ世界が荒れ果てているのか。なぜ変身できるのか。なぜ戦わないといけないのか。全ての答えがわかった時に主人公は……。

無事に記憶は戻るのか！？世界の平和は？

1. 荒れた道・午後2時・外

荒廃した世界。

必死に走っている牧之瀬 まきのせ 雄斗 ゆうと (28)

「なんなんだよ……!」

背後から怪人芋男爵 (29) とゲロモヤシ (25) が
追いかけてきている。

「誰なんだよあいつら!」

走り続ける雄斗。

「……っていつか」

荒廃した道。

「ここはどっだ」

水たまりに逃げる雄斗の顔が映る。

「俺は誰なんだよー!」

全力で叫ぶ雄斗。

2. 駐車場・午後2時・外

追いつめられる雄斗。

ジリジリと距離を詰める芋とモヤシ。

モヤシを殴る芋男爵

芋男爵

「まったく、俺まで走らせやがって。変身も出来ねえクズひとりてめえ一人で捕まえやがれ」
土下座するモヤシ。

モヤシ

「すみません！」

土下座したままニヤリとするモヤシ。

モヤシ

「でももう……やっといたんで」

足元を見る雄斗。

靴にモヤシ(野菜)が絡みついている。

雄斗

「な、なんだよこれ！ う、動けない！」

モヤシを蹴る芋男爵。

モヤシ

「ああっ！」

芋男爵

「追いつめる前にやるんだよ！ そういうの

は！」

狼狽する雄斗。

雄斗

「なあ、教えてくれ。あんた達は誰なんだ？ 変な恰好してるけど……俺が何かしたなら謝るからさ、覚えてなくて……」

だるそくに頭を掻く芋男爵。

芋男爵

「あーもういいもしいい。早くやれ」

モヤシ

「はい！ えへへ……」

モヤシ(野菜)を二本構えて、ニタニタしながら近づくモヤシ。

雄斗、必死の形相。

もがくが、動けない。

雄斗 「なんでだよ！ 説明してくれたたっていいだろ！

やだよこんなの！ 教えてよ！ ねえ！」

芋男爵 「あー声でけえな」

モヤシ 「静かにしてくださいね……うへへ」

モヤシの先端が雄斗に触れる。

雄斗 「やだよ……やだよおおおおー！」

雄斗の身体が強く発光する。

怯む怪人2人。

芋男爵 「なんだ！？」

モヤシ 「うわあああ」

逃げる雄斗。

雄斗 「うわあああ！ ごめんなさいいいいー！」

3.
商店街・午後3時・外

多くの店でシャッターが閉まつてる商店街。いく
つか営業してる店舗もある。

雄斗 「もう……なんだったんだよ……」

4. 焼肉カフェ「ミーティア」・午後3時・外

雄斗
店を見つめる雄斗。
「腹減ったなあ……焼肉かあ、いいなあ……」

店内を覗き込む雄斗。

5. 焼肉カフェ「ミーティア」・午後3時・内

小綺麗な店内。

片づけをしている美川令(24)

窓の方を向き、怪訝な顔をする。

窓には雄斗の羨ましそうな顔が貼りついている。

「なんだ？」

6. 焼肉カフェ「ミーティア」・午後3時・外

窓に貼りついている雄斗。

「いいなあ……カルビかなあ……いいなあ」

扉が開き、美川が出てくる。

「おい、窓が汚れる。離れろ」

「あつごめん定員さん……めちやくちやお腹空いてて、なんか香ばしい匂いがしたからつい」

怪訝な顔をする美川。

店内で席に座る雄斗と美川。

美川

「香ばしい匂い？　するわけないだろ。今日のランチはとっくに終わった。食いたきや明日来い」

雄斗

「ええっ？　今も香ばしい匂いがするからここだと……」

溜息を吐き、店内に戻ろうとする美川。その時、

雄斗のベルトに気づく。

美川

「お前っ！　そのベルト……！」

雄斗のベルトのバックルは網状で、湯気が出ている。

雄斗

「うわあなんだこれ！」

焦る雄斗。

驚いた様子で雄斗を見る美川。

雄斗

「こんなのつけてたの俺！？　ダサすぎじゃない？」

うろたえる雄斗。ベルトを触ってヤケドする。

雄斗

「あっちー！」

あきれ顔で雄斗を見る翔真。

美川

「お前、記憶が無いのか？」

店内には、酪農アイドル『めえ子』のポスターが張られている。

ガツガツと焼肉丼を食べている雄斗。

「うめー！ ほんとありがとう定員さん！」

ご飯粒が美川に飛ぶ。

いやな顔をする美川。

「……食いながら喋るな」

「いやーごちそうさま！」

丼を平らげる雄斗。モヤシと芋が残されている。

「おい、残さず食え」

「いやー野菜はなんか食えなくて」

「ふざけんな、金も無いならせめて完食するのが礼儀だろ」

「信じてもらえないと思って言わなかったんだけどさ、さつき芋とモヤシの化物みたいなのに追いかけてたんだよね」

驚いた様子の美川。

「だからかな……なんか食べる気しなくて……いや！ マズいとかじゃないのよ！ ほんとに！」

「そうか……」

席を立ち、引き出しを漁る美川。

雄斗

「信じてもらえないかもしれないけどさ！ 本当なんだよ！ なんか逃げられたけどやばかったんだよ！」

ミートウォッチを雄斗に投げる美川。

慌てて受け取る雄斗。

雄斗

「これは……？」

∞

荒れた道・午後3時・外

ゴミ箱を漁るゲロモヤシ。

それを見ている芋男爵。

モヤシ

「ここにもいません！」

モヤシを蹴る芋男爵。

倒れるモヤシ。

モヤシ

「痛いっ！ 僕はいいですけど周りの人に見られたら困るのは男爵じゃないですか……？」

モヤシを踏みつける芋男爵。

芋男爵

「適当に作ったとはいえ、ここまで知能が低い。人間性も浅ましいし、使えんな。念のためもう何人かソラ人間を作っておくか」

芋男爵の方を見るモヤシ。

モヤシ

「ソラ人間……？」

芋男爵

「お前のように、空っぽで何も無い人間だよ」

腕時計を見つめる雄斗。

立っている美川。

「ミートウォッチだ。もし危険が迫ったらそのボタンを押せ。ベルトも外すなよ」

ガツカリした顔の雄斗。

「えー！ この時計を？ ダサくない？ ベルトもなんかヘソのあたりが熱くて嫌なんだよな」

凄む美川。

「言っ通りにしろ。いいな」

「わ、わかったよ……定員さんは恩人だしな」

「店員さん、だ。記憶喪失は深刻みたいだな」

「ははは……」

『めえ子』のポスターを見る雄斗。

「かわいいなあ、この子」

思い出した様子の美川。

「ああ、今度紹介する」

「えー！？ 紹介してくれるの！？ 知り合いの？」

少しだけ顔をしかめる美川。

「今日の21時、また店に来い」

「わかったー！」

「一旦帰れ、17時からディナーの営業なんだ」

「え、うん、でも帰れただって、どこに帰ればいいのか……」

「そんなとこまで面倒見れるか、適当に時間をつぶしてろ」

少し残念そうな雄斗。

「そうだな……ご飯ありがとう！ また来る

よ……」

立ちあがる雄斗。

美川、背を向けたまま。

「ああ」

10.

工事現場・午後5時・外

通りかかる雄斗。

「あー金ねえから働かないとなー」

工事の様子。

「俺何の仕事してたのかなー？ 警備員とかなら記憶なくとも未経験でいけるかなー」
歩いていく雄斗。

歩いている雄斗。

「なんか屋根があるところで寝てえなあ……」

フラフラとした足取りの男が歩いてくる。

「あいつフラフラだな……大丈夫か？」

雄斗と目が合う男。雄斗に指をさす。

「いましたー！」

「え？」

雄斗の足元には、もやし絡みついている。

「またこれだ！ なんなんだよー！」

物陰から出てくるゲロモヤシと芋男爵。

「えへへ……」

「あーちよこまかと、ダルかったわ」

リップパーサイクロンみたいに腕を回す芋男爵。

「足が動けない！ なんでこんなことするんだ

よー！ ねえー！」

「うるせえ、ミミが」

雄斗をぶん殴る芋男爵。

「ぐはっ」

吐血する雄斗。

「ガハハハハ、てこずらせた罰だ！ おらあつ」

次々と殴る芋男爵。

殴られる雄斗。

雄斗 (Σ)
「なんだよ……死ぬのかよ……こんな何もわかんねえままで」

笑顔で殴り続ける芋男爵。

雄斗 (Σ)
「定員さんごめん……今日行けないわ……」
目を閉じる雄斗。

12.

焼肉カフェ「ミーティア」・午後3時・内(回想)

立っている美川。

美川
「ミートウォッチだ。もし危険が迫ったらそのボタンを押せ。ベルトも外すなよ」

13.

駐車場付近・午後5時・外

ハッと目を開く雄斗。

雄斗
「そっだー！」

腕時計を見る雄斗。小さく音が発せられている。

機械音
「ミートオン……ミートオン……」

雄斗
「よくわからないけど、うらああああー！」

ボタンを押す雄斗。

腕時計にメニュー画面が現れる。

機械音

「ご注文をお願いします」

困惑する雄斗。

雄斗

「な、なにこれえ？」

距離を取る芋男爵。

芋男爵

「貴様、いつの間にウォッチを？」

雄斗を笑うゲロモヤシ。

モヤシ

「な、なにしてるんですかそれ？ えははは」

雄斗

「俺もよくわかんねえけど、定員さんを信じ

るー」

雄斗、『牛』のボタンを押す。

機械音

「少々お待ちください」

ヴオンツという音とともに、美川が転送されてくる。

美川の手には皿に乗ったカルビ。

驚く雄斗。

雄斗

「て、定員さん？」

カルビを手渡す美川。

美川

「そいつをベルトの網でしっかり焼くんだ！」

ジュージューと音を立てているベルト。

雄斗

「わ、わかったよー！」

あせあせと焼き始める雄斗

じゃがいもを振りかぶる芋男爵。距離を取っている。

芋男爵 「させるかよ。くらえ、ピカ芋爆弾！」

じゃがいもを投げる芋男爵。

皿で防ぐ美川。

じゃがいもは爆発し、皿は碎け散る。

美川 「くそっ」

芋男爵 「おい、そっちだ」

頷くモヤシ。

ホースの足にもやし（野菜）が絡みついている。

美川 「しまった！」

じゃがいもを振りかぶる芋男爵。

芋男爵 「てめえからだ、くそが」

じゃがいもの直撃を喰らい、吹き飛ぶ美川。

美川 「ぐああっ」

雄斗の近くに倒れるホース。

雄斗 「嘘でしょ！？ どうすればいいの？ 焼いてていいの？」

片面が焼け、裏面を焼き始める雄斗。

足にモヤシ（野菜）が絡みつく。

モヤシ 「えへへ……へへっ……」

芋を振りかぶる芋男爵。

芋男爵

「すぐ焼けるものではない」

倒れている美川。

雄斗

「許さねえ……」

雄斗、怒りの表情。

芋を投げる芋男爵。

芋男爵

「死ねえええ！」

落ち着いた様子の雄斗。

雄斗

「いや……大丈夫だ！」

肉が焼け、身体が発光する。

牛の鳴き声がベルトから響き渡る。

牛の鳴き声

「モオオオオオオ！」

仮面ライダージューに変身した雄斗。

足のもやしを引きちぎり、芋を避ける。

驚く芋男爵。

芋男爵

「バカな！ 早すぎる！」

軽いポーズを決めるジュー。

ジュー

「牛肉はこのくらいでジュー分」

腰のライダートングを構えるジュー。

連射する。

逃げ惑う芋男爵、ゲロモヤシ。

芋男爵

「くそっ」

モヤシ

「ひびー！」

弾が切れる。

ジュー

「あれっ、これもう終わり……?」

モヤシをけしかける芋男爵。

芋男爵

「おい！ 行け！」

モヤシ

「ぎええええええ！」

モヤシ（野菜）を持ち走ってくるゲロモヤシ。

腰に手を当てるジュー。

ジュー

「こいつはレアだぜ！ くらえ！ カルビィィ

ーム！！」

ベルトから赤い光線が発射される。

モヤシ

「うわああああ」

吹き飛び気絶するゲロモヤシ、普通の青年になる。

ジュー

「付け合わせにもなんねえな」

芋男爵

「ちっ、洗脳が解けたか」

地面を掘る芋男爵、黄金に光る芋を発掘する。

芋男爵

「手加減はしねえ、このゴールデンピカ芋爆弾で
跡形もなく消し去ってやる」

ジュー

「そうはさせるか！」

高く飛び上がるジュー。

芋を振りかぶる芋男爵。

飛び蹴りの構え。

ジュー
「ライドアアアアキーイック！」

金の芋を投げる芋男爵。

芋男爵
「死ねやああああ！」

キックは芋を貫通する。

驚く芋男爵。

芋男爵
「バカなっ！」

そのまま芋男爵に直撃。

芋男爵
「くそがあああああ」

爆発する芋男爵。

ジュー
「(決め台詞 浮かばなかった)」

14. 駐車場付近・午後7時・外

変身が解けている雄斗。自分の手を見ている。

ゆっくりと歩いてくる美川。少し流血している。

「定員さん！ 無事だったのか」

美川
「店員さん、だ。あれくらいじゃ死なん。……た

だ、助けられたな」

雄斗
「いや全然！ 言う通りにしただけだし！」

雄斗の腹が鳴る。

雄斗
「あーでも、お腹空いたなー」

美川

「変な記憶喪失だな」

雄斗

「ん？うーん。なんか芋もモヤシも、すげえ旨かったんだ。なんで食えなかったのか思い出せねえ」

美川

「あれ？今回は残してないな」

雄斗

器に目をやる美川。
空の器。

ガツガツと焼肉丼を食べている雄斗。
立って掃除をしている美川。

15.

焼肉カフェ「ミーティア」・午後9時・内

美川

「なんだ、それは」
夜の街に歩いていく2人。

雄斗

「夜は焼肉っしょ！アツハツハツハ…」
あきれた様子の美川。

美川

「何が食いたい？」
あのポーズをする雄斗。

フツと笑う美川。

雄斗

「なあ、何で俺は変身したんだ？ あいつらはな
んで襲ってきたんだ？ わかんねえことが多いな
るんだけど、何も思い出せないんだ」

手を止める美川の顔がガラス越しに映る。

雄斗の方を見ず、口を開く。

美川

「お前は、戦う運命なんだ」

真剣な表情の雄斗。

16.

アクト・内

秋茄子50度とボスがいる。

秋茄子50度

「芋男爵との通信が途絶えました」

ボス

「焼いたか、ジュー……」

ニヤリと笑うボスの口元だけが映る。

(第一話 了)